

乾燥剤、鮮度保持剤**1. 製品表示を提案する「乾燥剤、鮮度保持剤」の範囲**

- ・用途:食品の防湿、鮮度保持(食品包装用)
- ・成分:次の成分のいずれかを含有する家庭用製品
塩化カルシウム、酸化カルシウム、シリカゲル、シリカエタノール、酸化鉄
- ・製品形態:粉末または固形の製剤が封入された袋

2. 関連する法律、自主基準等

自主基準 : 日本石灰乾燥協議会の自主規制基準

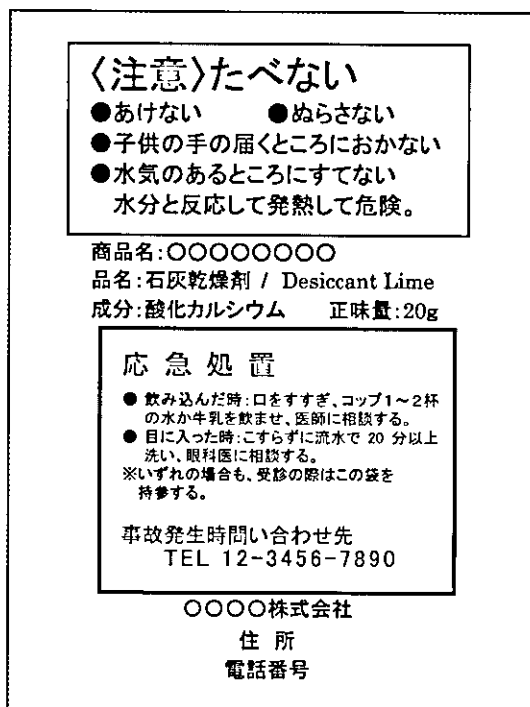
3. 必要な表示内容と表示方法(表示場所、表現方法)**1) 表示対象物****(1) 製品本体****2) 表示項目****(1) 製品本体に表示する項目**

- a.特に強調すべき表示内容
- b.「商品名」 c.「品名」 e.「成分」 g.「正味量」
- j.「応急処置」 k.「事故発生時間合せ先」 l.事業者名,住所,連絡先
 - ・ b.商品名、c.品名、e.成分、g.正味量は以上の順に1カ所にまとめて表示する。
 - ・ j.「応急処置」、k.「事故発生時間合せ先」、l.事業者名,住所,連絡先は、以上の順に1カ所にまとめて表示する
 - ・ 「」を付した項目については、「」内の文字を見出しとして、当該事項の表示の前に記載する。
 - ・ 表示スペースがない場合は、石灰乾燥剤についてはe.成分、l.事業者名,住所,連絡先を、そのほかの製品についてはe.成分、g.正味量、j.応急処置、l.事業者名,住所,連絡先を省略してもよい。

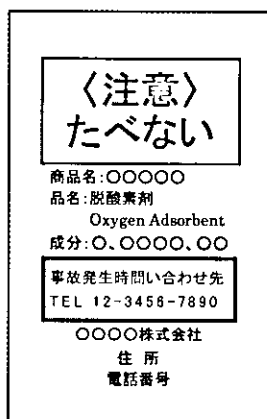
3) 表示項目の内容と表示方法

(1) 製品本体

①石灰乾燥剤の製品本体 正面の表示見本



②鮮度保持剤の製品本体 正面の表示見本



a. 特に強調すべき表示内容

- ・ 誤食事故回避のための注意

表示文例: 「注意 たべない」

表示場所: 正面と裏面

表現方法: 文字はゴシック体、赤色、15ポイント以上(表示例: 15ポイント)の大きさとする。表示全体の枠囲みや背景色を活用して強調する。

b. 「商品名」、c. 「品名」、e. 「成分」、g. 「正味量」

- ・ b. 「商品名」は、製品が特定できる名称を記載する。
- ・ c. 「品名」は、石灰乾燥剤、乾燥剤、鮮度保持剤、脱酸素剤 の以上 4 種の名称から該当する名称を記載する。
- ・ e. 「成分」は、安全上で重視すべき成分は必ず記載する。また、安全上の観点から必要に応じて、含有率も表示することを原則とする。

表示場所: 正面と裏面

表現方法: 文字は、ゴシック体で、可能な限り大きく表示する(表示例: 石灰乾燥剤 8 ポイント、鮮度保持剤 6 ポイント)。

j. 「応急処置」

- ・ 誤食事故、目に入る事故が発生した時の適切な応急処置を記載する。その他、使用対象者や配合成分、使用方法等から予見できる事故に対する適切な応急処置を、事故発生頻度の高い順または事故の重症度が高い順に記載する。

表示場所: 正面と裏面

表現方法: 項目名称「応急処置」の文字はゴシック体、8 ポイント以上(表示例: 10.5 ポイント)で、a. 特に強調すべき表示内容の文字と同等の大きさかそれより一回り小さい大きさで表示する。文字色、枠囲みや背景色を活用して強調する。

本文の文字は、ゴシック体、6 ポイント以上(表示例: 6 ポイント)で可能な限り大きく表示する。

事項が多い場合には、行頭文字や太字を活用して、使用者が理解しやすいように配慮する。

表示全体を枠囲みや背景色を活用して目立つように配慮する。

k. 「事故発生時間合せ先」

- ・ 事故発生時に対処方法について問い合わせることができる窓口の電話番号を記載する。この電話相談窓口は 24 時間対応とする。

表示場所: 正面と裏面

表現方法: 項目名称「事故発生時間合せ先」の文字はゴシック体、赤色、6 ポイント以上(表示例: 石灰乾燥剤 8 ポイント、鮮度保持剤 6 ポイント)で可能な限り大きく表示する。

表示全体を文字色、枠囲みや背景色を活用して強調する。

l. 事業者名、住所、連絡先

- ・ 事業者名は製造業者名または販売業者名を記載する。
- ・ 連絡先は、消費者相談窓口の電話番号を対応時間とともに記載する。

表示場所: 正面と裏面

表現方法: 文字はゴシック体、6 ポイント以上(表示例: 石灰乾燥剤 8 ポイント、鮮度保持剤 6 ポイント)で表示する。

4. 事例集

No.	状況分類	経路	年齢	性別	連絡者	状況	症状の有無	症状・経過
1	誤認(食品類)	経口	78歳	女性	医療機関	健康食品と一緒に封入されていた乾燥剤を薬と一緒に服用した。	有り	翌朝から嘔気が出現。
2	誤認(食品類)	経口	72歳	男性	一般市民	目の悪い夫婦が、海藻サラダについていた脱酸素剤をふりかけて食べた。	無し	
3	誤認(食品類)	経口	70歳	女性	一般市民	生ラーメンに入っていた、乾燥剤らしきものを、スープと間違えて飲んだ。	無し	
4	誤認(食品類)	経口	68歳	男性	一般市民	乾燥剤をお茶と思い、煎じて飲んだ。	無し	
5	誤認(食品類)	経口	67歳	女性	一般市民	バームクーヘンについていた鮮度保持剤に気づかず、包丁と一緒に切ったため中身がもれて付着した。粉砂糖だと思い食べた。	無し	
6	誤認(食品類)	経口	53歳	男性	一般市民	うどんについていた脱酸素剤を七味と思い、かけて食べた。	無し	
7	誤認(食品類)	経口	40歳	女性	一般市民	カルシウム剤の中に入っていた乾燥剤。暗いところで服用したため間違えて飲んだ。	無し	
8	誤認(食品類)	経口	37歳	女性	一般市民	韓国海苔についていた乾燥剤の袋が破れて中身が漏れていた。塩だと思って食べていたら、最後に乾燥剤の袋が出てきた。	無し	
9	誤認(食品類)	経口	26歳	男性	一般市民	から揚げについていた脱酸素剤を調味料と思い、ふりかけて食べた。	無し	
10	誤認(食品類)	経口	8歳	男性	一般市民	袋入りの鮮度保持剤をアップルパイの皮と間違えて噛んだ。	無し	
11	誤認(食品類)	経口	7歳	男性	医療機関	ダンゴについていた脱酸素剤を親がゴマと間違えて、ふりかけて子供に食べさせた。	無し	
12	誤認(医薬品)	経口	82歳	女性	医療機関	家人が内服薬の近くにあった石灰乾燥剤を誤って渡し、服用した。	有り	来院時、嘔気、嘔吐。翌日、内視鏡検査にて食道に帯状潰瘍、胃内に粘膜浮腫と出血性びらんの散在、一部潰瘍を認めたが、1週間後にはほぼ消失。
13	誤認(医薬品)	経口	29歳	男性	一般市民	便秘薬の中の乾燥剤を薬と間違えて飲んだ。袋などには入っておらず、薬と同じ裸錠だった。	有り	熱っぽさと口渇感を訴えている。
14	誤認(歯磨き)	経口	87歳	女性	その他	石灰乾燥剤を歯磨きと間違えて、歯ブラシにつけて歯を磨いた。	有り	唇の腫脹、ただれ、発赤。炎症は数日で治まった。
15	薬剤に気づかず	経口	54歳	女性	医療機関	きな粉についていた乾燥剤に気づかず、牛乳と一緒にジューサーにかけて300mL飲んだ。	無し	
16	薬剤に気づかず	経口	51歳	女性	医療機関	黒ごまの袋の中身を紙袋入りの乾燥剤ごと全部ミキサーにかけ、ジュースにして飲んだ。	無し	
17	薬剤に気づかず	経口	42歳	男性	一般市民	生麺に入っていた鮮度保持剤に気づかず、一緒に煮込んで食べた。袋が破れて中身が出ているのに気づいた。	無し	
18	認識・判断困難(高齢者)	経口	83歳	女性	医療機関	老健施設入所中の高齢者があめ袋に入っていた乾燥剤を誤食した。	有り	数時間後の受診時、口腔粘膜のびらん、出血を認めるが、牛乳飲用、胃粘膜保護剤の内服にて完治した。
19	認識・判断困難(高齢者)	経口	81歳	女性	医療機関	高齢者が内服薬を服用する際、乾燥剤の袋もあけて一緒に服用した。	無し	
20	認識・判断困難(認知症)	経口	91歳	女性	医療機関	認知症の高齢者が、見舞い客の持ってきたお菓子に入っていた石灰乾燥剤を「このお菓子は美味しくないね」と言って食べていた。	無し	
21	認識・判断困難(その他)	経口	90歳	不明	医療機関	視力障害のある患者が乾燥剤を誤って食べた。	有り	唇の軽度発赤
22	認識・判断困難(学童)	経口	9歳	男性	医療機関	ドーナツについていた鮮度保持剤をいたずらし、袋をやぶって中身をなめた。	有り	嘔気、腹痛を訴え来院。
23	認識・判断困難(乳幼児)	経口	10ヵ月	男性	一般市民	靴に入っている乾燥剤を袋ごと口にし、袋が破れたため中身を食べた。	無し	
24	認識・判断困難(乳幼児)	経口	9ヵ月	女性	一般市民	ビタミン剤についていた乾燥剤を卵ボーロの袋に入れた。なくなっているのに、卵ボーロと一緒に食べた可能性がある。	無し	
25	認識・判断困難(乳幼児)	眼	2歳 10ヵ月	女性	一般市民	乾燥剤の袋を開け、飛散した中身が眼に入った。	無し	

芳香剤・消臭剤エアゾール

1. 製品表示を提案する「芳香剤・消臭剤エアゾール」の範囲

- ・用途:室内の芳香または消臭
- ・成分:次の成分を含有する家庭用製品
消臭剤または香料、植物抽出物、エチルアルコール
- ・製品形態:液体(エアゾール)
- ・包装形態:180mL以上のエアゾール缶

2. 関連する法律、自主基準等

法律:高圧ガス保安法

消防法

自主基準:日本エアゾール協会の自主基準(平成9年9月 日本エアゾール協会)

一般消費者用 芳香・消臭・脱臭剤の自主基準

(平成14年11月 芳香消臭脱臭剤協議会)

3. 必要な表示内容と表示方法(表示場所、表現方法)

1) 表示対象物

(1) 製品本体(エアゾール缶)

2) 表示項目

(1) 製品本体(エアゾール缶)に表示する項目

a.特に強調すべき表示内容

b.「商品名」 c.「品名」 d.「用途」 e.「成分」 g.「正味量」

h.「使用方法」

i.「使用上の注意」 j.「応急処置」 k.「事故発生時間合せ先」 l.事業者名,住所,連絡先

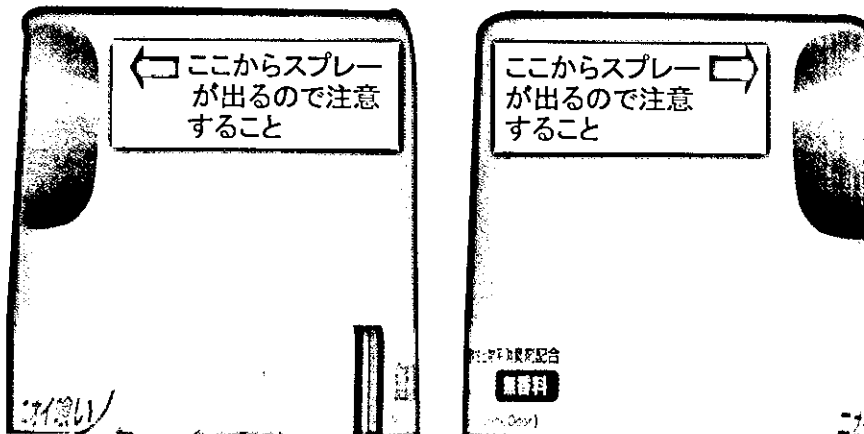
m.その他

- ・ b.「商品名」、c.「品名」、d.「用途」、e.「成分」、g.「正味量」は以上の順に1ヵ所にまとめて表示する。
- ・ i.「使用上の注意」、j.「応急処置」、k.「事故発生時間合せ先」、l.事業者名,住所,連絡先は、以上の順に1ヵ所にまとめて表示する
- ・ 「」を付した項目については、「」内の文字を見出しとして、当該事項の表示の前に記載する。

3) 表示項目の内容と表示方法

(1) 製品本体(エアゾール缶)

①スプレー部分の表示見本



②正面(または裏面冒頭)の表示見本

○必ず使用前に噴射口、噴射方向を確認する。目線より上にスプレーしない。目に入ったり吸入することがある。
○裏面の表示をよく読むこと

③裏面の表示見本

商品名: ○○○○○○○○○○	用途: 室内用
品名: 芳香・消臭剤 / Air Freshener	正味量: 180mL
成分: 香料 エタノール、植物抽出物	
使用方法	空間に向けてスプレーしてください。 使用量の目安: 1回あたり、2秒間スプレー ※約 100 回使えます。
<p>●人体には使用しない。●食物・食器に直接スプレーしない。●床・壁にスプレーしない。●白地や淡い色の繊維製品や革製品、白木や桐、水性のワックス、ペンキ、ニス等の塗装部、アクリル製やスチロール製のプラスチックなどに直接スプレーしない。●用途以外には使用しない。●横向きや、逆さまにして使用しない。最後まで使いきれなくなることがある。●車内、直射日光のあたる場所、暖房器具(ファンヒーターなど)の付近などに置かない。高温になると破裂する恐れがあり危険。●水まわりや湿気の多い場所には置かない。缶がさびて穴があき破裂することがある。●子供の手の届くところに置かない。●捨てるときは、火気のない戸外で噴射音が消えるまでボタンを押してガスを抜き捨てること。</p>	
<p>●目に入った時は、こすらずに流水で 15 分以上洗う。●手についた時は大量の水で洗い流す。●吸い込んだ時はその場を離れ新鮮な空気を吸う。 ※いずれも異常がある場合は医師に相談する。受診の際は本品を持参する。</p>	
<p>事故発生時間問い合わせ先 TEL 12-3456-7890</p>	
<p>○○○○株式会社 住所 電話番号</p>	
<p>火気・高温・注意</p>	
<p>高压ガスを使用した可燃性の製品であり、危険なため、下記の注意を守ること。 ①炎や火気の近くで使用しないこと。②火気を使用している室内で大量に使用しないこと。③高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所やストーブ、ファンヒーターに近くなど温度が40度以上となる所に置かないこと。 ④火の中に入れてはいけないこと。⑤使い切って捨てること。 高压ガス: LPガス 第一石油類(54mL) (火気厳禁)危険等級Ⅱ</p>	

a. 特に強調すべき表示内容

・ スプレーの噴射口の明示

表示文例:「ここからスプレーが出るので注意すること」の文章とともに、矢印を利用して噴射口がどこにあるかわかるように表示する。

表示場所:スプレー部分の噴射口の付近

表現方法:文字はゴシック体、8ポイント以上の大きさ(表示例:10.5ポイント)で表示する。文字色は赤色とし、枠囲みや背景色を活用して強調する。

*スプレーボタンの位置がわかりにくい製品や製品を手を持つ際にスプレーボタンに触れてしまう位置にスプレーボタンがある製品については、同様にスプレーボタンを明示する表示をすること。

・ 噴射方向が不適切であるために発生する事故に対する注意と予防策

・ 表示を読むこと

表示文例:「必ず使用前に噴射口、噴射方向を確認する。目線より上にスプレーしない。目に入ったり吸入することがある。

裏面の表示をよく読むこと」など、何故そうしなければならないか、その理由も記載する。

表示場所:正面、または裏面の表示の先頭

表現方法:文字はゴシック体、8ポイント以上(表示例:10.5ポイント)の大きさとする。文字色は、禁止事項、守るべき事項について赤色とする。表示全体の枠囲みや背景色を活用して強調する。

b. 「商品名」、c.「品名」、d.「用途」、e.「成分」、f.「液性」、g.「正味量」

・ b.「商品名」は、製品が特定できる名称を表示する。

・ c.「品名」は、一般消費者用 芳香・消臭・脱臭剤の自主基準に則って表示する。

・ d.「用途」は、一般消費者用 芳香・消臭・脱臭剤の自主基準に則って表示する。

・ e.「成分」は、有効成分および安全上で重視すべき成分は必ず記載する。また、安全上の観点から必要に応じて、含有率も表示することを原則とする。基本的には、一般消費者用 芳香・消臭・脱臭剤の自主基準に則る。

表示場所:h.使用方法の直前に表示することが望ましい。

表現方法:文字は、ゴシック体で、8ポイント以上の大きさ(表示例:8ポイント)で表示する。

h.「使用方法」

・ 使用量の目安となる使用の適量について具体的に記載し、見出し文字として「使用量の目安」を表示する。

・ 適切に使用できる使用方法を記載する。

表示場所:裏面などのよみやすい場所。「使用上の注意」と同一面に表示することが望ましい。

表現方法:項目名称「使用方法」の文字はゴシック体、8ポイント以上(表示例:8ポイント)で、a.特に強調すべき表示内容と同等の大きさかそれより一回り小さい文字で表示する。

本文の文字の大きさは指定しないが可能な限り大きくする(表示例:7ポイント)。
必要に応じてイラストを用いるなどして、使用者が理解しやすいように配慮する。

i.「使用上の注意」

- ・ 使用前、使用中、使用后、保管における安全上(対人・対物)の注意事項を使用方法の順(使用前→使用中→使用后→保管)に記載する。同一時点における注意事項については重要な内容の順に記載する。

表示場所:裏面などの表示スペースが最も広い場所

表現方法:項目名称「使用上の注意」の文字はゴシック体、8ポイント以上(表示例:8ポイント)で、a.特に強調すべき表示内容と同等の大きさか、それより一回り小さい文字で表示し、文字色、枠囲みや背景色を活用して強調する。

本文の文字はゴシック体、6ポイント以上(表示例:7ポイント)とする。

注意事項が多い場合には、行頭文字や「使用に際しての注意」、「使用中・使用後の注意」、「保管上の注意」などの見出しを表示して、使用者が理解しやすいように配慮する。

表示全体を枠囲みや背景色を活用して目立つように配慮する。

j.「応急処置」

- ・ 目に入る事故、皮膚に付着する事故、吸入事故が発生した時の適切な応急処置を記載する。その他、使用対象者や配合成分、使用方法等から予見できる事故に対する適切な応急処置を、事故発生頻度の高い順または事故の重症度が高い順に記載する。

表示場所:裏面などの表示スペースが最も広い場所

表現方法:項目名称「応急処置」の文字はゴシック体、8ポイント以上で、a.特に強調すべき表示内容の文字と同等の大きさかそれより一回り小さい大きさで表示する。文字色、枠囲みや背景色を活用して強調する。

本文の文字は、ゴシック体、8ポイント以上で可能な限り大きく表示する。

事項が多い場合には、行頭文字や太字を活用して、使用者が理解しやすいように配慮する。

表示全体を枠囲みや背景色を活用して目立つように配慮する。

k.「事故発生時間合せ先」

- ・ 事故発生時に対処方法について問い合わせることができる窓口の電話番号を記載する。この電話相談窓口は24時間対応とする。

表示場所:裏面などの表示スペースが最も広い場所

表現方法:項目名称「事故発生時間合せ先」の文字はゴシック体、赤色、8ポイント以上(表示例:8ポイント)で、a.特に強調すべき表示内容の文字と同等の大きさかそれより一回り小さい大きさで表示する。

表示全体を文字色、枠囲みや背景色を活用して強調する。

l.事業者名、住所、連絡先

- ・ 事業者名は製造業者名または販売業者名を記載する。
- ・ 連絡先は、消費者相談窓口の電話番号を対応時間とともに記載する。

表示場所:裏面などの表示スペースが最も広い場所

表現方法:文字はゴシック体、事業者名、連絡先は8ポイント以上(表示例8ポイント)、住所は、6ポイント以上(表示例:住所 6.5ポイント)以上で可能な限り大きく表示する。

m.その他

- ・ 関連する法律、自主基準等に則り、エアゾール製品に必要な表示をする。

No.	剤型 (容器等)	状況分類	経路	患者 年齢	患者 性別	連絡 者	状況	症状の 有無	症状・経過
1	液体(エア ゾール)	用法誤り(噴 射方向誤り)	眼	28歳	女性	一般 市民	芳香剤スプレーを自分で間違っ て眼に向けて押ししまった。	有り	眼がポヤッとした感 じ
2	液体(エア ゾール)	用法誤り(噴 射方向誤り)	眼	42歳	男性	一般 市民	夜中、トイレにてエアゾール式 の消臭剤をスプレーしたところ 眼に入った。	有り	充血、痛み等は無いが、右 眼が重く感じられる。
3	液体(エア ゾール)	用法誤り(噴 射方向誤り)	眼	48歳	女性	一般 市民	容器を振っても音がしなかつ たため出ないと思い、上を向 けてボタンを押ししたところ 液が噴出して眼に入った。	有り	眼の刺激感と違和感
4	液体(エア ゾール)	用法誤り(用 法未確認)	眼	49歳	女性	一般 市民	使用方法を確認せず、エア ゾール式の芳香剤をスプレー したところ、中身が眼に入 った。	有り	充血、眼の違和感
5	液体(エア ゾール)	用法誤り(換 気不良)	吸入	11歳	不明	医療 機関	車内でエアゾール式のエア コン用消臭剤を使用し、換 気をせずに乗車した。	有り	気分不良
6	液体(エア ゾール)	用法誤り(薬 物残存)	眼	不明	不明	その他	エアゾール式の芳香剤を廃 棄するたぐに穴を開けたと ころ、中身が飛散して眼に 入った。	有り	充血、刺激感があるが徐 々に軽快している。
7	液体(エア ゾール)	認識・判断 困難(乳幼児)	眼	2歳 11ヵ月	男性	一般 市民	トイレでエアゾール式の芳 香剤をいたずらし、顔にス プレーした。眼に入った可 能性がある。	無し	
8	液体(ボ トル)	誤認(食品 類)	経口	77歳	女性	一般 市民	冷蔵庫で使用していたゼ リー状の消臭剤をゼリーと 思って食べた。容器には 何も書いていなかった。	無し	
9	液体(ボ トル/ 点眼容 器類似)	誤認(医薬 品)	眼	28歳	女性	一般 市民	滴下タイプの消臭剤を点 眼薬と違って点眼した。	有り	眼の痛みがあるが徐々 に軽快している。
10	液体(ボ トル)	用法誤り(冷 蔵庫で保管)	経口	51歳	男性	医療 機関	冷蔵庫で使用していた液 体の消臭剤を誤って誤飲 した。	有り	軽度の頭重感
11	液体(ボ トル)	認識・判断 困難(乳幼児)	経口	1歳 5ヵ月	男性	一般 市民	液体芳香剤の容器を逆 さにして遊んでおり、容 器から漏れた中身をな めた。	無し	
12	液体(ポン プ式ス プレー)	誤認(その他)	眼、吸 入、経 皮	6歳	女性	一般 市民	ミストタイプの芳香剤 を寝癖直しと間違えて 友人と二人で髪にス プレーした。	無し	
13	液体(ポン プ式ス プレー)	用途誤り(人 体に対して使 用)	経口	26歳	男性	一般 市民	アルコールの臭いを消 そうと思い、衣類用の 消臭剤を口中にス プレーした。	無し	
14	液体(ポン プ式ス プレー)	用法誤り(食 品・食器類近 辺で使用)	経口	5歳	女性	一般 市民	ポンプ式スプレータイ プの芳香剤を使用し た際、麦茶に入 った。	無し	
15	液体(ポン プ式ス プレー)	認識・判断 困難(乳幼児)	眼、他	7ヵ月	女性	一般 市民	兄のいたずらで、顔 に向けてスプレー された。	無し	
16	液体(袋)	用法誤り(す ぎ不十分)	経口	24歳	女性	一般 市民	家人が液体の芳香剤 が手に付いているのに 気づかず、家中の物 をさわっていたため、 付着した芳香剤が口 に入った可能性がある。	無し	

No.	剤型 (容器等)	状況分類	経路	患者 年齢	患者 性別	連絡 者	状況	症状の 有無	症状・経過
17	固形/食品 類似	用法誤り(開 封方法不良)	経口	33歳	女性	一般 市民	固形の芳香剤を開封する際、飛び 散って口に入った。	無し	
18	固形	認識・判断困 難(認知症)	経口	94歳	男性	医療 機関	午前中お茶を飲んだところ嘔吐し、吐 物中に芳香剤を認めたため救急来院 となった。家人によると、前日の夕 〜翌朝にかけて容器半分くらいの芳香 剤を誤食したと思われるとのこと。	有り	嘔吐による誤嚥性 肺炎を発症。来院 時、強度の喘鳴、呼 吸困難、チアノー ゼ、低酸素血症で あった。徐々に憎 悪、1日後死亡。
19	固形(食品 容器類似)	認識・判断困 難(認知症)	経口	81歳	男性	医療 機関	認知症の高齢者が、缶入りの固形芳 香剤をスプーンですくって1缶食べた。	無し	
20	固形	認識・判断困 難(認知症)	経口	81歳	女性	医療 機関	家人が買物に行っている間に車内で 車用芳香剤約40gを誤食した。一部誤 嚥し、誤嚥性肺炎を併発して来院。	有り	来院時、意識障害、 嘔気、嘔吐。芳香剤 による中毒症状は 軽微であったが、誤 嚥性肺炎による治 療で約1ヶ月を要し た。
21	固形	認識・判断困 難(学童)	経口	6歳	男性	一般 市民	固形の芳香剤の袋を破って数粒食べ た。	無し	
22	固形	認識・判断困 難(乳幼児)	経口	2歳 2ヵ月	女性	一般 市民	ラムネ状の芳香剤を1粒食べた。	無し	
23	固形	認識・判断困 難(乳幼児)	経口	2歳	女性	一般 市民	ガソリンスタンドで車の灰皿に入れて もらった粒状の芳香剤を1、2粒食べ てしまった。	無し	
24	固形(食品 容器類似)	認識・判断困 難(乳幼児)	経口	1歳 6ヵ月	女性	一般 市民	缶詰タイプの固形芳香剤をお菓子に つけて食べていた。	無し	
25	固形	認識・判断困 難(乳幼児)	経口	1歳	不明	医療 機関	ゼリー状の芳香剤を兄弟で食べた。口 から臭いがする。	無し	
26	固形(蒸散 型)	用法誤り(ヒト・ 動物近辺で使 用)	経口	4歳	男性	医療 機関	蒸散型の自動車の消臭剤。無人の状 態で使用すべきものを、車内にいたま ま使用した。	無し	
27	粉末(袋)	薬剤に気づか ず	経口	2歳	女性	一般 市民	新しい水筒の中に活性炭が入ってい るのに気づかずに、そのままお茶を入 れた。	有り	2日にわたって下 痢。

ポータブルトイレ用消臭剤

1. 製品表示を提案する「ポータブルトイレ用消臭剤」の範囲

- ・用途:ポータブルトイレの消臭
- ・成分:次の成分を含有する家庭用製品
消臭剤または香料、植物抽出物、有機酸、非イオン系または陰イオン系界面活性剤、エチルアルコール
- ・製品形態:液体
- ・包装形態:400mL以上のボトル

2. 関連する法律、自主基準等

自主基準:一般消費者用 芳香・消臭・脱臭剤の自主基準

(平成 14 年 11 月 芳香消臭脱臭剤協議会)

次の法律や自主基準等には該当しないが、製品の用途や含有成分から参照することを推奨する。

法律:家庭用品品質表示法

自主基準:洗浄剤・漂白剤等安全対策協議会の自主基準

(平成 15 年 6 月 洗浄剤・漂白剤等安全対策協議会)

家庭用カビ取り・防カビ剤安全確保マニュアル作成の手引き

(平成 14 年 1 月 厚生労働省)

家庭用洗浄剤・漂白剤等の警告表示のあり方について

(平成 7 年 6 月 表示・取扱説明書適正化委員会)

3. 必要な表示内容と表示方法(表示場所、表現方法)

1) 表示対象物

(1) 製品本体(ボトル)

2) 表示項目

(1) 製品本体(ボトル)に表示する項目

a.特に強調すべき表示内容

b.「商品名」 c.「品名」 d.「用途」 e.「成分」 f.「液性」 g.「正味量」

h.「使用方法」

i.「使用上の注意」 j.「応急処置」 k.「事故発生時問合せ先」 l.事業者名, 住所, 連絡先

- ・ b.「商品名」、c.「品名」、d.「用途」、e.「成分」、f.「液性」、g.「正味量」は以上の順に 1カ所にまとめて表示する。
- ・ i.「使用上の注意」、j.「応急処置」、k.「事故発生時問合せ先」、l.事業者名, 住所, 連絡先は、以上の順に 1カ所にまとめて表示する
- ・ 「」を付した項目については、「」内の文字を見出しとして、当該事項の表示の前に記載する。

b. 「商品名」、c. 「品名」、d. 「用途」、e. 「成分」、f. 「液性」、g. 「正味量」

- ・ b. 「商品名」は、製品が特定できる名称を表示する。
- ・ c. 「品名」は、一般消費者用 芳香・消臭・脱臭剤の自主基準に則って表示する。
- ・ d. 「用途」は、一般消費者用 芳香・消臭・脱臭剤の自主基準に則って表示する。
- ・ e. 「成分」は、有効成分および安全上で重視すべき成分は必ず記載する。また、安全上の観点から必要に応じて、含有率も表示することを原則とする。基本的には、一般消費者用 芳香・消臭・脱臭剤の自主基準に則る。
- ・ f. 「液性」は、家庭用品品質表示法、雑貨工業用品品質表示規定(住宅用又は家具用の洗浄剤)に定められた水素イオン濃度(pH)の区分に従い「弱アルカリ性」「中性」「弱酸性」「酸性」のいずれかを表示する。

表示場所:h.使用方法の直前に表示することが望ましい。

表現方法:文字は、ゴシック体で、8ポイント以上の大きさ(表示例:8ポイント)で表示する。

h. 「使用方法」

- ・ 使用量の目安となる使用の適量について具体的(水量との関係など)に記載し、見出し文字として「使用量の目安」を表示する。
- ・ 適切に使用できる使用方法を記載する。

表示場所:裏面などのよみやすい場所。「使用上の注意」と同一面に表示することが望ましい。

表現方法:項目名称「使用方法」の文字はゴシック体、8ポイント以上(表示例:8ポイント)で、a.特に強調すべき表示内容と同等の大きさかそれより一回り小さい文字で表示する。

本文の文字の大きさは指定しないが可能な限り大きくする(表示例:8ポイント)。

使用方法が複雑な製品は、イラストを用いるなどして使用者が理解しやすいように配慮する。

i. 「使用上の注意」

- ・ 使用前、使用中、使用后、保管における安全上(対人・対物)の注意事項を使い方の順(使用前→使用中→使用后→保管)に記載する。同一時点における注意事項については重要な内容の順に記載する。

表示場所:裏面などの表示スペースが最も広い場所。

表現方法:項目名称「使用上の注意」の文字はゴシック体、8ポイント以上(表示例:8ポイント)で、a.特に強調すべき表示内容と同等の大きさか、それより一回り小さい文字で表示し、文字色、枠囲みや背景色を活用して強調する。

本文の文字はゴシック体、8ポイント以上(表示例:8ポイント)とする。

注意事項が多い場合には、行頭文字や「使用に際しての注意」、「使用中・使用後の注意」、「保管上の注意」などの見出しを表示して、使用者が理解しやすいように配慮する。

重要な事項については、太字などを活用して目立つように配慮する。

表示全体を枠囲みや背景色を活用して目立つように配慮する。

j.「応急処置」

- ・ 誤飲事故、目に入る事故が発生した時の適切な応急処置を記載する。その他、使用対象者や配合成分、使用方法等から予見できる事故に対する適切な応急処置を、事故発生頻度の高い順または事故の重症度が高い順に記載する。

表示場所:裏面などの表示スペースが最も広い場所に表示する。

表現方法:項目名称「応急処置」の文字はゴシック体、8ポイント以上(表示例:8ポイント)で、

a.特に強調すべき表示内容の文字と同等の大きさかそれより一回り小さい大きさで表示する。文字色、枠囲みや背景色を活用して強調する。

本文の文字は、ゴシック体、8ポイント以上(表示例:8ポイント)で可能な限り大きく表示する。

事項が多い場合には、行頭文字や太字を活用して、使用者が理解しやすいように配慮する。

表示全体を枠囲みや背景色を活用して目立つように配慮する。

k.「事故発生時間合せ先」

- ・ 事故発生時に対処方法について問い合わせることができる窓口の電話番号を記載する。この電話相談窓口は24時間対応とする。

表示場所:裏面などの表示スペースが最も広い場所に表示する。

表現方法:項目名称「事故発生時間合せ先」の文字はゴシック体、赤色、8ポイント以上(表示例:8ポイント)で、a.特に強調すべき表示内容の文字と同等の大きさかそれより一回り小さい大きさで表示する。

表示全体を文字色、枠囲みや背景色を活用して強調する。

l.事業者名、住所、連絡先

- ・ 事業者名は製造業者名または販売業者名を記載する。
- ・ 連絡先は、消費者相談窓口の電話番号を対応時間とともに記載する。

表示場所:裏面などの表示スペースが最も広い場所に表示する。

表現方法:文字はゴシック体、事業者名、連絡先は8ポイント以上(表示例:8ポイント)、住所は6ポイント以上(表示例:8ポイント)以上で可能な限り大きく表示する。

4. 事例集

No.	状況分類	経路	年齢	性別	連絡者	状況	症状の有無	症状・経過
1	誤認(医薬品)	経口	89歳	女性	その他	粉末のポータブルトイレ用消臭剤を、内服薬と思い、1袋飲んだ。	無し	
2	誤認(その他)	経口、 経皮	6歳	女性	一般市民	粉末のポータブルトイレ用消臭剤を入浴剤と思い、浴槽に入れて入浴した。	無し	
3	用法誤り(飲食物容器の使用)	経口	70歳	男性	その他	粉末のポータブルトイレ用消臭剤を溶解し、ペットボトルに入れてあったものをコップ1杯程度飲んでしまった。	有り	軽度腹痛
4	認識・判断困難(認知症)	経口	89歳	女性	医療機関	認知症の高齢者が、夜中に粉末のポータブルトイレ用消臭剤を1袋をなめ、口の周りと便が青い。	有り	腹痛。青色の便を多量に排泄。
5	認識・判断困難(認知症)	経口	87歳	女性	医療機関	消臭液を200mL飲んでいるところを発見され来院した。	有り	来院時、嘔吐により気道誤嚥し、呼吸困難、過呼吸、意識障害。経過中に急性心筋梗塞を併発し、DICから多臓器不全へと進行し2病日に死亡。
6	認識・判断困難(認知症)	経口	83歳	女性	医療機関	一人暮らしの認知症高齢者が、喉が渇いたため、液体のポータブルトイレ用消臭剤を飲んだ。	有り	受信時軽度嘔気
7	認識・判断困難(認知症)	経口	72歳	女性	医療機関	ベッドサイドにある消臭液を誤飲。	有り	来院時、ショック、呼吸困難。入院18時間後に死亡。誤嚥性肺炎からARDSへと移行した症例。
8	認識・判断困難(乳幼児)	経口	1歳 0か月	女性	一般市民	ポータブルトイレ用消臭剤のキャップから垂れていた液体をなめ、口の周りが青くなっている。	無し	

保冷剤

1. 製品表示を提案する「保冷剤」の範囲

- ・用途:食品の保冷
- ・成分:次の成分を含有する家庭用製品
水、高分子吸水性ポリマー、プロピレングリコール
但し、エチレングリコールは含まないこと。
- ・製品形態:液体またはゲルが封入された袋

2. 関連する法律、自主基準等

なし

3. 必要な表示内容と表示方法(表示場所、表現方法)

1) 表示対象物

(1) 製品本体

2) 表示項目

(1) 製品本体に表示する項目

a.特に強調すべき表示内容

b.「商品名」 c.「品名」 e.「成分」 g.「正味量」

j.「応急処置」 k.「事故発生時間合せ先」 l.事業者名,住所,連絡先

- ・ b.商品名、c.品名、e.成分、g.正味量は以上の順に1ヵ所にまとめて表示する。
- ・ j.「応急処置」、k.「事故発生時間合せ先」、l.事業者名,住所,連絡先は、以上の順に1ヵ所にまとめて表示する
- ・ 「」を付した項目については、「」内の文字を見出しとして、当該事項の表示の前に記載する。
- ・ 表示スペースがない場合は、e.成分、g.正味量、j.応急処置、l.事業者名,住所,連絡先を省略してもよい。

3) 表示項目の内容と表示方法

(1) 製品本体

①製品本体の表示見本

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p style="font-size: 24px; margin: 0;">〈注意〉</p> <p style="font-size: 24px; margin: 0;">たべない</p> </div>
<p>商品名: ○○○○○○○○</p> <p>品名: 保冷剤 / Ice Pack</p> <p>用途: 食品の保冷</p> <p>成分: 水、プロピレングリコール、 高分子吸水性ポリマー</p> <p>正味量: 20g</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">応 急 処 置</p> <p>● 飲み込んだ時: 口をすすぎ、コップ1杯の水を飲ませる。</p> <p>● 目に入った時: こすらずに流水で洗う。。</p> <p>※いずれの場合も、異常がある場合は医師に相談する。受診の際はこの袋を持参する。</p> <p>事故発生時間問い合わせ先 TEL 12-3456-7890</p> </div>
<p>○○○株式会社</p> <p>住 所</p> <p>電話番号</p>

a. 特に強調すべき表示内容

- ・ 誤食事故回避のための注意

表示文例: 「注意 たべない」

表示場所: 正面と裏面

表現方法: 文字はゴシック体、赤色、15ポイント以上(表示例: 20ポイント)の大きさとする。表示全体の枠囲みや背景色を活用して強調する。

b. 「商品名」、c. 「品名」、e. 「成分」、g. 「正味量」

- ・ b. 「商品名」は、製品が特定できる名称を記載する。
- ・ c. 「品名」は、保冷剤と記載する。
- ・ e. 「成分」は、安全上で重視すべき成分は必ず記載する。また、安全上の観点から必要に応じて、含有率も表示することを原則とする。

表示場所: 正面と裏面

表現方法: 文字は、ゴシック体で、可能な限り大きく表示する(表示例: 8ポイント)。

j.「応急処置」

- ・ 誤食事故、目に入る事故が発生した時の適切な応急処置を記載する。その他、使用対象者や配合成分、使用方法等から予見できる事故に対する適切な応急処置を、事故発生頻度の高い順または事故の重症度が高い順に記載する。

表示場所: 正面と裏面

表現方法: 項目名称「応急処置」の文字はゴシック体、8 ポイント以上(表示例: 10.5 ポイント)で表示する。文字色、枠囲みや背景色を活用して強調する。

本文の文字は、ゴシック体、6 ポイント以上(表示例: 6 ポイント)で可能な限り大きく表示する。

事項が多い場合には、行頭文字や太字を活用して、使用者が理解しやすいように配慮する。

表示全体を枠囲みや背景色を活用して目立つように配慮する。

k.「事故発生時間合せ先」

- ・ 事故発生時に対処方法について問い合わせることができる窓口の電話番号を記載する。この電話相談窓口は 24 時間対応とする。

表示場所: 正面と裏面

表現方法: 項目名称「事故発生時間合せ先」の文字はゴシック体、赤色、6 ポイント以上(表示例: 8 ポイント)で可能な限り大きく表示する。

表示全体を文字色、枠囲みや背景色を活用して強調する。

l. 事業者名, 住所, 連絡先

- ・ 事業者名は製造業者名または販売業者名を記載する。
- ・ 連絡先は、消費者相談窓口の電話番号を対応時間とともに記載する。

表示場所: 正面と裏面

表現方法: 文字はゴシック体、6 ポイント以上(表示例: 8 ポイント)で表示する。

4. 事例集

No.	状況分類	経路	年齢	性別	連絡者	状況	症状の有無	症状・経過
1	用途誤り(人体に対して使用)	経口	7歳	女性	一般市民	食品に添付されていた保冷剤を額に貼っていたが、穴があいていて中身が漏れ、子供がそれを食べた。	無し	
2	用途誤り(人体に対して使用)	経口	2歳9ヵ月	女性	一般市民	子供が扉を手を挟んだので食品に添付されていた保冷剤で冷やしていたところ、袋をかじり、もれた中身を飲み込んだ。	無し	
3	誤認(食品類)	経口	80歳	女性	医療機関	宅急便の荷物に入っていた保冷剤をシャーベットと思い、2袋食べた。	無し	
4	誤認(食品類)	経口	65歳	男性	一般市民	鮮度保持目的で保冷剤とマヨネーズなどの調味料と一緒に好み焼きの上のせていた。家人が保冷剤も調味料と思い、かけて食べた。	無し	
5	誤認(食品類)	経口	62歳	女性	医療機関	老眼の高齢者。弁当につけていた注意書きが見えず、添付されていた保冷剤をドレッシングと誤ってかけて食べた。	無し	
6	誤認(食品類)	経口	57歳	女性	医療機関	杏仁豆腐に添付されていたゼリー状の保冷剤をシロップと思い、かけて食べた。	有り	嘔気、嘔吐。
7	誤認(食品類)	経口	26歳	男性	一般市民	ゼリー状に溶けていた保冷剤(添付されていた)をシロップと思い、シュークリームにかけて食べた。	無し	
8	薬剤に気づかず	経口	38歳	男性	一般市民	ジュースを作るのに保冷剤を水と一緒にミキサーにかけてしまった。飲んだ時に気づいた。	無し	
9	認識・判断困難(認知症)	経口	80歳	女性	医療機関	保冷剤(エチレングリコール含有)を食品だと思い、コップ2杯程飲んだ。2.5時間後の夕方、嘔吐、気分不良を訴え、歩行できなくなる。翌日の朝方より意識レベルが低下し、救急車にて来院。	有り	来院時、意識障害、強度の代謝性アシドーシス、過呼吸。肺水腫を併発。2病日腎機能障害出現。下剤、強制利尿、アシドーシス補正とステロイド投与により4病日には意識清明となり、他の症状も徐々に改善する。32病日に完治退院。
10	認識・判断困難(乳幼児)	経口	2歳10ヵ月	女性	一般市民	水枕をいたずらし、はさみで切って中身を食べた可能性がある。	無し	
11	認識・判断困難(乳幼児)	経口	1歳6ヵ月	男性	一般市民	いたずらし、1袋のほとんどを食べた。	無し	
12	認識・判断困難(乳幼児)	経口	1歳6ヵ月	男性	一般市民	バナナの形をした保冷剤(食品に添付されていた)をいたずらし、容器を噛みきった。漏れた中身を食べた。	無し	
13	認識・判断困難(乳幼児)	経口	1歳2ヵ月	男性	一般市民	食品に添付されていた保冷剤の袋をくわえ、袋が破れたために中身を少量食べた。	無し	